

第2回 富田林市都市農業振興基本計画策定委員会（議事要旨）

日 時：令和2年11月6日（金） 14時30分～16時

場 所：富田林市役所 2階 201会議室

事務局：産業まちづくり部 農とみどり推進課

傍聴者数：3人

出席者：北野委員、浅岡 均委員、仲谷委員、山本委員、森本委員、小長谷委員、
武田委員、山尾委員、上田委員

議事次第

1. 開会
2. 議題
 - (1) 第1回委員会を振り返り課題の整理
 - (2) 富田林市の農業における可能性
 - (3) 富田林市の農業における基本的方向性と具体的施策
3. 閉会

【議事要旨】

1. 開会
 - 資料の確認
 - 策定委員会の成立確認（過半数の出席）
 - 傍聴者への「会議の傍聴に係る遵守事項」の確認
2. 議題
 - (1) 第1回委員会を振り返り課題の整理

【議長】

○「議題①」「第1回委員会を振り返り課題の整理」について事務局より説明をお願いします。

【事務局】

○第1回委員会の課題と整理については、農地の課題と担い手の課題に分けて報告を行う。

【議長】

○農地への病害虫管理については、IT管理により農薬などを増やさない農業も長期的な課題として考えていく必要がある。

○富田林市総合ビジョン及び総合基本計画の抜粋資料、農業者アンケートの資料について事務局より説明してください。

【事務局】

○富田林市総合ビジョン及び総合基本計画の抜粋資料については、農業振興部分について進める政策内容を載せています。農業者アンケートの資料については、大阪府農業会議所と富田林市農業委員会の共同で、今年度を実施した農業者向けアンケートの集計結果を載せさせていただきました。

【議長】

○総合ビジョン及び総合基本計画は、上位計画となり内容としても6次産業化、地場製品のブランド推進、観光との連携、遊休農地の活用、アグリツーリズム、新規就農者の確保などが載せられており、これらを踏まえて都市農業振興基本計画を策定していく必要がある。

○農業者アンケートの資料については、もう少し詳細に事務局の方より説明してください。

【事務局】

○富田林市農業実行組合長会を中心にアンケート調査をした集計結果になります。農家の平均年齢、農家の家族構成、農業後継者の有無、専業農家と兼業農家の割合、今後の農業経営の拡大や縮小の割合、今後の農地活用に必要なことなどです。

【A委員】

○農家の担い手が少なく、高齢化が進んでいるのはどこの市町村も同じと思うのですが、その中でも近隣市町村でそれらに対応した施策を取られている市町村や民間企業等があり、ある程度の成功例があるのであれば、それらの施策を取り入れる検討をしてはどうか。そのためには、視察や資料取り寄せなどしていただき議題に掛けることで、より委員会が進むと思います。

【事務局】

○前回の第1回委員会でも、議長の方から先進地視察の提案をいただいております。委員の皆様も参加していこうということであれば、実施したいのですが、予算の都合上、来年度にでも検討させていただき、委員の皆様の集約もできたらと思います。

【B委員】

○富田林市の特に西板持地区においては、専業農家が農家全体の41%を占めており、ある程度後継者も育っています。なす、きゅうり、えびいもといったブランド力の高い農産物を生産しているので、この辺に後継者が育つヒントがあると思います。もともとは農業に熱心な地域であり、後継者を育てる意識の高い農家が多いところでもあります。農業を残していく意味ではヒントがある地域だと思います。また、ブルーベリーを栽培して観光農園のように西板持地区でされている人もおられます。

【C委員】

○農業を知らないところで育ち、結婚して農家に嫁ぎましたが、主人を見ていると農業が楽しくなければ、農業を継続できないと感じています。いろんな形があるのではないかと思います、ブルーベリー栽培を始めました。10年以上経過しましたが、今ではこの地域でもいい農業が出来ていると思います。

【議長】

○山本委員がブルーベリーに着目されたのはなぜですか。

【C委員】

○主人が農業大学に通ったところに、そこからアメリカ研修に行き、その後2年間アメリカの農場で働いていました。そこで食べたブルーベリーが美味しく思い、これがきっかけとなり日本に帰ってブルーベリー栽培を始めました。

【D委員】

○地域の農業者と商業者がコラボレーションすることは、非常に密接な地域ブランドに発展していく可能性が高いです。高齢化が進む担い手の中、若い世代の方が農業をしてみたいと思うためには、いろいろな観点から、関係する制度等を変えることが必要になってくると思います。地域で初めて農業をする人たちに不安がないよう

に仕組みを作ることも必要です。そのためにも成功事例をたくさん見ることが大事だと思います。

【E 委員】

○担い手を確保して農地が保全できる。後継者に農業を進めるだけでなく、農業を始めたい人などに、もっと広く農地を貸していく必要がある

○農業をしていくには、経費がかかり過ぎてしまい、生活ができないというのが1番の問題になっている。まずは農業で生活ができるようになる取組みが必要だと思います。6次産業などを進めていく上では、1次産業を完成させることが大事です。

【議長】

○農業を行う上で、コストが高額になってしまうことに対して、収入を上げるしかないなので、そのためには高付加価値を付ける必要がある。そこにはやはり6次産業やブランド促進を進めていくしかないのかと思います。

○農工商連携とは、あくまで農がリーダーシップを取り進めることであり、これがすなわち6次産業であります。

(2) 富田林市の農業における可能性

【議長】

○「議題②」「富田林市の農業における可能性」について事務局より説明をお願いします。

【事務局】

○富田林市の農業における可能性について、農地と担い手の可能性に分けて提案を行う

【F 委員】

○西板持地区では、農地もある程度集約されており、石川の水が1年中利用できることから施設園芸には非常に向いているが、喜志地区などに関しては、農地の利便性が低く、ため池を利用した営農が中心であることから、地区によって農業のしやすさが違うのが実状である。

○西板持地区のような、収益性の高い施設園芸のできない地区はたくさんあるのが現状です。

○西板持地区は、営農の利便性が高い地区なので、後継者も育っていると思います。

【議長】

○担い手のいない遊休農地を、利用権の設定により、中核農家などに任せていき農地集約していくのも重要と思います。

【F 委員】

○営農規模を拡大していこうと考える農家は、耕作しない農地を知ると、どんどん利用権を設定して増やしています。

【G 委員】

○遊休農地から、害虫などによる被害が増えることから、耕作しない農地を借りて営農しているのも現状です。

【議長】

○過去には、耕地整備を中心にする流れであったが、最近では、利用権の設定によって農地を集約化する流れである。

(3) 富田林市の農業における基本的方向性と具体的施策

【議長】

○「議題③」「富田林市の農業における基本的方向性と具体的施策」について事務局より説明をお願いします。

【事務局】

○富田林市の農業における基本的方向性と具体的施策について、富田林市総合ビジョン及び総合基本計画を踏まえて提案説明を行う。

○基本的方向性として3つの柱を設けて、各項目の具体的施策を説明する。

【A 委員】

○計画を立てても実際に実現できないようではいけない。具体的なアプローチが計画の文書に見えているかが大事である。

【議長】

○いろいろな計画も含めて、きれいな言葉で表現しているが、現場に即した基本計画である必要があります。各委員のアイデアをもっと盛り込んでいきたい。

○地域ごとのゾーニングを行い、地域ごとで抱えている課題に違いがあると思うので、地域ごとで強化が必要な内容を調査する必要がある。

【H オブザーバー】

○JA として南河内全域を管轄しておりますが、市町村として富田林市は、後継者、新規就農者共に多くおられます。また新規就農者への育成も、他の市町村に比べれば進んでいると思います。

○JA と行政がうまく協力し、営農指導など進めればと思います。

【議長】

○市民農園をビジネスとして展開し、農業を体験した人から、農業に興味をもち、就農者を志す人が現れるようになればいいのでは。

○新型コロナウイルスの影響で、大阪府下の観光が大きな流れとなっている。寺内町などが重要な観光施設になってくると思います。

【I 委員】

○もう少し各地域をつぶさに見るのは、いいと思います。地域の中にも成功事例はたくさんあると思います。

○富田林市の農業の成功事例を集めることは、富田林市の農業の PR にも繋がると思いますし、今回の計画のコンテンツになると思います。

○農地を貸したい人と新規就農者をしたたい人が、しっかり情報を集めてマッチングすることは非常に大事だと思います。

○初めのステップとして支えるのは、農業施策のみでなく都市環境施策と連動して行えれば、移住促進などにも繋がっていくと思います。

○農業のいろいろな課題に対して複雑に絡み合っている部分も多いと思いますので、絡みあった課題に対して横断的な施策になっていくと思います。

【B 委員】

○例年、大阪府農業委員会の「なにわ農業賞」に富田林市の若手農業者が受賞していることから、受賞者の農業経営実態や経営状況などの資料があれば、何かヒントが見いだせるのではないかと思います。

【議長】

○各委員については成功事例を持ち寄ってもらい、課題解決の検討をしたいと思います。事務局は次回の委員会でいろいろな成功事例の資料集めをして出していただければと思います。

3. 閉会